

令和2年度 第2回 幕別町社会教育委員会議

日 時 令和2年12月17日（木）午後3時
場 所 幕別町教育委員会 会議室

日 程

1 あいさつ

幕別町社会教育委員会 委員長 原田 啓二

2 議事

報告第1号	社会教育係所管事業の報告について	2
報告第2号	社会体育係所管事業の報告について	3
報告第3号	生涯学習係所管事業の報告について	5
報告第4号	図書館所管事業の報告について	8
協議第1号	幕別町スポーツ推進計画（案）の策定について	12

3 その他

○令和2年度 幕別町社会教育委員名簿

番号	氏名	住所	備考		
1	やまだ ひろし 山田 洋	幕別町緑町	(1) 学校教育関係者	幕別小学校校長	
2	すずき じょうじ 鈴木 譲二	帯広市	(1) 学校教育関係者	江陵高校副理事長	副委員長
3	ちば ともこ 千葉 智子	幕別町錦町	(2) 社会教育関係者	NPOまくべつ町民芸術劇場	
4	わだ りょうじ 和田 良治	幕別町札内北栄町	(2) 社会教育関係者	体育連盟	
5	みやもと あきら 宮本 彰	幕別町本町	(2) 社会教育関係者	文化協会	新任
6	にいくら はるな 新倉 榛名	幕別町札内共栄町	(2) 社会教育関係者	スポーツ推進員	
7	はらだ けいじ 原田 啓二	幕別町札内青葉町	(2) 社会教育関係者	子ども会育成連絡協議会	委員長
8	おの あつし 小野 敦	幕別町札内文京町	(2) 社会教育関係者	PTA連合会会長	新任
9	いけだ あきこ 池田 明子	幕別町寿町	(3) 学識経験者	幕別市街	
10	こばやし すずな 小林 鈴菜	幕別町札内青葉町	(3) 学識経験者	札内市街	新任
11	しんぼ みやこ 新保 都	幕別町札内青葉町	(3) 学識経験者	札内市街	
12	まつだ てつひろ 松田 哲博	幕別町字明倫	(3) 学識経験者	幕別農村	
13	かとう ひろき 加藤 広規	幕別町字途別	(3) 学識経験者	札内農村	
14	とりけ じょうしょう 鳥毛 浄生	幕別町忠類白銀町	(3) 学識経験者	忠類地域	新任
15	いはら みきえ 井原 みきえ	幕別町忠類錦町	(3) 学識経験者	忠類地域	

任期：令和4年5月29日まで

2 議事

報告第1号 社会教育係所管事業の報告について

1 小学生国内研修派遣事業（受入）について

【埼玉県上尾市、神奈川県開成町・高知県中土佐町】

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

2 主催講座等について

(1) 夏休み学び隊

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

(2) 「幕別町コミュニティカレッジ」

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

3 学校芸術鑑賞事業について

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

○代替事業 「派遣型学校芸術鑑賞」

古典落語「ぞろぞろ」鑑賞&落語ワークショップ

10月9日（金）	9:20~12:00	札内南小学校（4年生）
10月19日（月）	10:35~11:20	明倫小学校（全校）
10月30日（月）	9:30~12:20	幕別小学校（4~6年生）
11月16日（月）	11:30~12:15	忠類小学校（4年生）
11月16日（月）	14:10~15:00	忠類中学校（全校）
12月7日（月）	10:30~11:15	途別小学校（全校）
12月14日（月）	10:25~11:10	古舞小学校（全校）

4 中学生・高校生海外研修事業

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

報告第2号 社会体育係所管事業の報告について

1 幕別町チャレンジデー2020

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

2 初心者水泳教室

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

3 パークゴルフ発祥の町第8回家族大会

- (1) 日時 令和2年8月9日(日) 9:00~11:00
- (2) 場所 エルムコース
- (3) 参加者 家族部門 5組10人、
一般部門 8組16人



4 第10回ウォークラリーまくべつ(主催 スポーツ推進委員会)

- (1) 日時 令和2年10月10日(土) 9:30~11:40
- (2) 場所 集合 札内スポーツセンター
コース 札内北堤防コース 7.6Km
- (3) 参加者 12人



5 第10回まくべつマラソン大会(主催 まくべつマラソン大会実行委員会)

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

6 令和2年度十勝管内スポーツ推進委員研修会

- (1) 日時 令和2年10月3日(土) 13:30~16:00
- (2) 場所 よつ葉アリーナ十勝(帯広市総合体育館)
- (3) 講師 阿部 美保子氏(とちかちFLOW代表)「ブラインドサッカー」

7 令和2年度第62回北海道スポーツ推進委員研究協議会

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

8 未来のオリンピック選手を育てる事業

① 子どものスポーツを支えるための研修会

- (1) 日 時 令和2年11月9日(月) 19:00～20:40
- (2) 場 所 札幌コミュニティプラザ 集会室
- (3) 内 容 子どものやる気を支えるかかわり方の工夫
- (4) 講 師 日本体育大学 児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科
宇部 弘子准教授
- (5) 参加者数 保護者・指導者等 30人



② オリンピアン実践教室

- (1) 日 時 令和2年11月29日(日) 9:30～12:15
- (2) 場 所 札幌スポーツセンター アリーナ
- (3) 内 容 オリンピックアスリートによる競技指導(陸上、ラグビー)
- (4) 参加人数 陸上: 39人、ラグビー: 43人
- (5) ゲスト 福島千里選手(短距離陸上)、桑井亜乃選手(女子7人制ラグビー)



9 慶應義塾体育会野球部によるスポーツ合宿

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

報告第3号 生涯学習係所管事業の報告について

1 忠類ナウマン象化石発掘 50周年記念事業

◇札幌市円山動物園「かぼちゃプロジェクト」

昨年に引き続き、化石象と現代象のつながりとして連携し、忠類小学校で育てたかぼちゃを札幌市円山動物園のアジア象にプレゼントする「かぼちゃプロジェクト」を企画した。

- 6月11日 ナウマン象化石が発掘された12万年前の地層の土で育てたかぼちゃの苗を、忠類小児童が小学校農園に円山動物園のアジア象のたい肥を使って植える。
- 9月24日 忠類小児童がかぼちゃを収穫し、円山動物園のアジア象に目録を添えてプレゼントする。(当初は修学旅行で持参予定であった)
- 10月29日 忠類小と円山動物園をビデオ会議システムでつなぎ、忠類小児童が体育館に集まり、アジア象がかぼちゃを食べている様子や象に生態について、映像を見ながら飼育員の解説で学ぶ。



◇忠類ナウマン象化石の里帰り展示

北海道博物館に収蔵されている忠類ナウマン象化石のうち2点を借用して、8月26日から11月3日までの約2カ月間、幕別町役場、幕別町百年記念ホール、忠類ナウマン象記念館の3カ所で50周年記念事業のPRも兼ねて、12万年前の本物の化石を多くの方に見学していただいた。



◇特別展「ナウマン象復元骨格模型と現生アジア象の骨の比較展示」

- (1) 日時 令和2年10月3日(土)～
11月3日(火・祝)
- (2) 場所 忠類ナウマン象記念館
- (3) 内容 足寄動物化石博物館が所蔵するナウマン象の頭蓋骨の模型やアジア象の全身の本物の骨を借用し、比較展示を行い来館者に2種類の象の違いを見学



していただいた。

- (4) その他 同時開催事業として「あれから半世紀…新聞記事で振り返る化石発見・発掘当時の回顧展」「発掘 50 周年記念寄稿文の展示」「町内小中学生の象の絵作品展」を実施し、象の絵作品展では 129 人の児童・生徒の出展があった。

約 1 カ月の特別展期間中、1,443 人の来館をいただいた。



◇記念コンサート「ホンヤミカコ オカリナ公演&ワークショップ」

- (1) 日時 10月10日(土) 17:30~19:30
(2) 場所 忠類ナウマン象記念館
(3) 内容 オカリナ奏者のホンヤミカコさんとハーブ奏者の毛利沙織さんを招き、ナウマン象全身骨格模型を囲んでコンサートを実施し、70名の来場をいただいた。公演終了後、オカリナワークショップを実施し、17名の方がホンヤさんから直接指導をいただいて3曲の演奏を行った。



◇ナウマン象足跡化石発掘調査

- (1) 日時 10月19日(月)~22日(木)、26日(月)~28日(水)計7日間
(2) 場所 忠類ナウマン象発掘跡地(忠類晩成)
(3) 内容 昨年に引き続き、50年前にナウマン象化石が発掘された地層周辺の調査を実施し、22個のくぼみ(荷重痕)を発見して、滋賀県の専門家に鑑定



を依頼した。

来月には鑑定結果が出る予定であり、2月に足跡化石発掘成果報告会を実施する予定である。

◇50周年記念事業の記録撮影と映像編集、DVD化

昨年度の化石発見50周年と今年度の化石発掘50周年の記念事業である足跡化石発掘調査や特別展などの記録撮影を委託し、映像の編集を行い、講演会などでの上映を実施予定。

2 50周年記念事業の今後の予定について

◇50周年記念誌の刊行

今年の春に公募した忠類ナウマン象についての寄稿文や50年前のナウマン象化石発掘当時の写真、新聞記事などをまとめた記念誌を来年1月に刊行予定。

◇ナウマン象足跡化石の発掘成果報告会

- (1) 日時 令和3年2月15日(月) 18:30～
- (2) 場所 忠類ナウマン象記念館 特別展示室
- (3) 講師 滋賀県足跡化石研究会 会長 岡村喜明氏
北海道博物館 学芸員 添田雄二氏
足寄動物化石博物館 特任学芸員 澤村寛氏
- (4) 内容 今年の発掘調査で発見したナウマン象の足跡の可能性のある荷重痕の鑑定結果について、テレビ会議システムを使い、滋賀県の専門家の出演により解説していただいたり、発掘調査にあたった学芸員からの報告や50周年記念映像の上映会を予定。

◇ナウマン象の故郷応援企画 森本憲司絵画展「大地の詩」

- (1) 日時 令和3年2月18日(木)～2月28日(日)
- (2) 場所 忠類ナウマン象記念館 特別展示室
- (3) 内容 忠類在住の画家・森本憲司さんの協力により、絵画展を実施する。
幕別町の鳥である「白鳥」など十勝の自然を題材とした油彩を約20点展示し、50周年記念事業のフィナーレを飾っていただく予定。



越冬Ⅱ(十勝川) F100 Kenji Morimoto
第85回国展(2011)

報告第4号 図書館所管事業の報告について

【令和2年度実施事業】

1 図書館を核とした地域づくり事業

町民を主体とする「図書館協議会」の助言のもとに、今年度は、ARの技術を活用し、地域情報や郷土の史跡などを図書資料等と紐付けして情報発信するためのプラットフォームの構築や、ARを広く利用してもらうためのWi-Fi環境の整備を行いました。

平成28年度から、国の交付金を活用して、ストレス測定や、落語会などの事業を実施してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大により実施を見合わせています。

2 まくバス（さつバス）de映画会【毎月1日のコミバスデー、9月・12月・1月を除く・本館】

毎月1日(土・日・祝日の場合は翌運行日)のコミバス無料の日に合わせて、映画会を開催しています。お茶やコーヒーを用意し、くつろいだ雰囲気の中で上映しています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、開催回数、参加者数ともに減少しています。(参加者数延べ19名[4~11月])

3 ハロウィン 仮装でガチャイベント!【10/24(土)25(日)・全館】

ハロウィンというイベントを通じて、異文化にふれる機会を提供することを目的に開催しました。期間中、仮装をして来館した方や、かぼちゃ、おばけなどハロウィンに関わるものをモチーフにした物を持参した方は、ガチャガチャを回すことができ、景品が当たるもので、景品は、図書館で作成した利用者カードケースとしました。(参加者数150名)

4 東部4町図書館交流連携事業

※新型コロナウイルス感染拡大により中止

5 図書館夏まつりin幕別本館

※新型コロナウイルス感染拡大により中止



6 ちょっとしたアイデアで楽しく!やさいづくり教室

※新型コロナウイルス感染拡大により中止

7 学校図書館支援事業

第3期幕別町子どもの読書活動推進計画の大きな柱のひとつに、「学校図書館の整備・充実」を掲げています。

図書館では、子どもたちの読書環境の充実を図るため、移動図書館車による小学校等への司書の訪問や、中学校図書館の蔵書登録と蔵書管理支援など、各学校との連携に努

めています。また、ボランティアグループに協力いただき、学校での読み聞かせも実施しています。

8 マイファーストブックサポート事業

乳児期から親子で本を楽しむ機会を提供し、心豊かに安心して子育て出来る環境を整えることを目的に、7、8か月乳児健診会場に司書が訪問し、保護者に読み聞かせのコツなどを説明するとともに、絵本1冊をプレゼントするものです。

今年度から、中札内高等養護学校幕別分校の生徒がシルクスクリーンでプリントした図書館オリジナルキャラクターの絵本バックに入れてプレゼントしています。(4～11月実績：100名)



9 読書週間事業 ～「本のおもしろさはじける！ポップ（POP）コーン（コンテスト）」

ひとりでも多くの方に図書館を利用していただこうと、読書週間事業を行っています。

POPコンテストは、キャッチコピーや文章・イラストなどを用いて本の魅力を伝えるメッセージカードを募集するコンテストですが、メッセージカードを作ることで、より深く作品の内容に触れる機会や、気に入った作品を紹介する楽しさを提供することを目的に開催しています。

今年度は、キャッチコピーや文章だけの「文豪部門」及び絵と文章による「画伯部門」を「子どもの読書週間」及び「秋の読書週間」に合わせて5月から10月に開催しましたが、幼児から大人の8部門に225名の応募がありました。応募作品のコピーを全館に掲示し、本を借りていただいた方の投票で審査を行いました。投票総数は、6,536点でした。11月15日には表彰式を開催し、入賞者21名のうち12名に出席いただきました。

10 図書館開館30周年直前記念イベント「読んでみ～んか？30」

幕別町図書館は、令和2年4月で開館30年を迎えました。30周年にあわせ、30冊を読破すると、図書館オリジナルキャラクターでデザインされた記念の利用者カードと交換することができるイベントを開催しています。

記念カードのデザインは、東京オリンピックの開催に注目し、図書館キャラクターが陸上選手、ラグビー選手、MTB選手に扮したものの3種としました。

直前記念イベントと位置付けていたため、当初は、4月末までの開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により、期間を令和2年度末まで延長しています。(11月末現在37名達成)

11 町民文芸「まくべつ」36号を発行

特集「幕別ひと物語～私の生きがい」

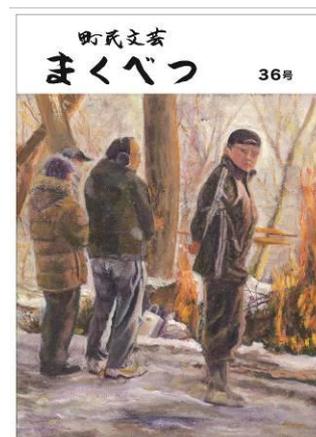
人生百年時代と言われる今を、夢や目標をもって活躍されている小学生から卒寿間近の方まで、町内の様々な年代の輝いている方々をご紹介させていただいています。

グラビア「朝のスケッチ」は吉川民之輔さんによる風景写真を4作品、幕別町を題材とした「十勝丘陵」を発表した伊藤桂子さんの小説「さっぽろ・ススキノ・おんなの独り言」も掲載しています。

また、今号からA4サイズになり、読み易くなりました。

文芸誌は、1冊500円で幕別町図書館（本館・札内分館・忠類分館）、幕別町役場札内支所・忠類総合支所で販売しています。

◆第37号（令和3年10月1日発行予定）の原稿を募集中（R3. 3. 31まで）



12 その他

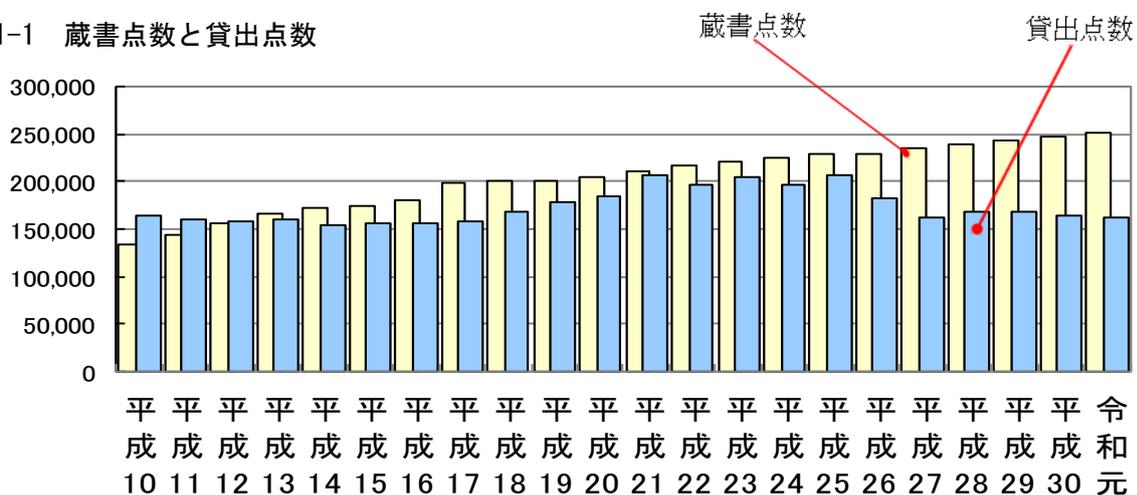
スワディ講座【絵本セラピー®（本館）デコパーージュ（札内）老い支度（忠類）】、「ぬいぐるみの宿泊研修」、北の本箱、図書テーマ特別展示（毎月更新）、切り絵の会作品展、古本交換市、雑誌無料配布[3月予定]、ボランティアグループによる読み聞かせや紙芝居、ボランティアによる本の修理など多彩な図書館活動を実施中です。小・中・高校生の職場体験や小学生の社会見学も受け入れしています。

また、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、書籍消毒機の導入、閲覧コーナーや本館AVコーナーへのアクリル板やパーテーションの設置、在宅中の読書活動支援のための貸出図書セットの拡充、本館トイレの改修など様々な感染防止対策を講じています。

 図書館主要データ(令和元年度末)

蔵書点数①	252,255冊	
貸出点数②	161,637冊	
貸出者数③	26,437人	※館内閲覧・行事参加を除く
総利用者数④	39,032人	※館内閲覧・行事参加を含む
町の人口⑤	26,605人	(令和元年度末)
登録者数⑥	16,736人	
開館日数⑦	296日	
移動図書館者運行日数	155日	
蔵書密度	9.5点	①÷⑤ (町民1人当たり蔵書点数)
貸出密度	6.1点	②÷⑤ (町民1人当たり貸出点数)
実質貸出密度	9.7点	②÷⑥ (登録者1人当たり貸出点数)
資料回転率	0.64	②÷① (蔵書の貸出率)
登録率	63.1%	⑥÷⑤ (町民の登録率)
1日平均貸出点数	546.1点	②÷⑦
本館	250.3点	※BM含む
札内分館	247.6点	
忠類分館	48.2点	
1日平均貸出者数	89.3人	③÷⑦
本館	40.1人	※BM含む
札内分館	40.7人	
忠類分館	8.5人	
1日平均総利用者数	131.9人	④÷⑦
本館	59.8人	※BM含む
札内分館	59.3人	
忠類分館	12.8人	
町民1人当たり利用回数		③÷⑤ 1.0回
図書館管理費決算額	44,482,273円	
うち蔵書購入費	8,123,856円	※AVを含む

1-1 蔵書点数と貸出点数



協議第1号 幕別町スポーツ推進計画（案）の策定について

- ・別紙「第1期幕別町スポーツ推進計画（令和3年度～令和5年度）（案）」参照

3 その他

- ・十勝東部4町社会教育委員研修会（当番町：幕別町）
※新型コロナウイルス感染症拡大により中止（当番町は令和3年度へ繰越）
- ・十勝社会教育委員研修会

※今後の委員会等開催予定

- ① 令和2年度第3回社会教育委員会
 - (1) 日 時 令和3年3月上旬（予定）
 - (2) 場 所 教育委員会会議室

【主な議案】令和2年度文化賞・スポーツ賞等の選考



第 1 期幕別町スポーツ推進計画
(令和 3 年度～令和 5 年度)
(案)

令和 2 年 12 月
幕別町教育委員会

目 次

第1章 計画の策定に当たって

- 1 計画策定の背景と趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 計画の策定体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 スポーツを取り巻く現状

- 1 町民のスポーツ意識の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 スポーツ関係団体の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 スポーツ施設の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第3章 計画の体系

- 1 基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 2 基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 3 SDGsを踏まえた計画の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 4 計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第4章 基本計画

- 1 スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう！・・・・・・・・ 14
- 2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！・・・・・・・・ 15
- 3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！・・・・・・・・ 17
- 4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！ 19
- 5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！・・・・・・・・ 21

第5章 計画の推進に当たって

- 1 計画の推進に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 2 主な関係団体の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の背景と趣旨

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神のかん養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっています。

また、スポーツは、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するものでもあります。

国は、スポーツ立国を実現するために、平成23年に「スポーツ基本法」を制定し、スポーツに関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明確化しました。また翌年には「スポーツ基本計画」、平成29年には「第2期スポーツ基本計画」を策定し、国民、スポーツ団体、民間事業者、地方公共団体、国等が一体となって取り組むための指針を示しました。

町では、これまで町内からオリンピック選手やプロスポーツ選手(以下「アスリート」と総称します。)を多く輩出しており、町民一人ひとりが運動やスポーツを見る・する・楽しむ機会を創り、地域に根ざしたスポーツコミュニティの確立に向けて、「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を展開してきました。

これまでの取組や国におけるスポーツ施策を踏まえ、今後も町民一人ひとりがスポーツに関わることで、スポーツを地域に根ざした文化として醸成するとともに、スポーツ交流人口の拡大や経済の活性化につながるよう、町・町民・地域・関係機関が一体となって、一歩ずつ着実にスポーツ振興に取り組むため、「幕別町スポーツ推進計画」を策定します。

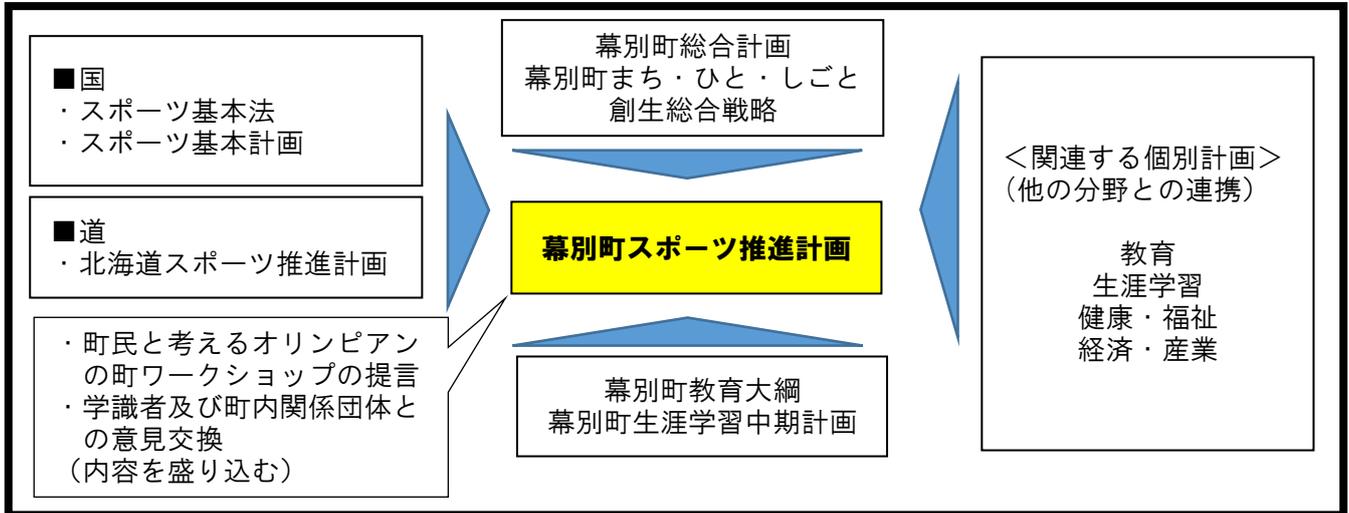
2 計画の位置付け

この計画は、スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」として策定します。

また、計画策定に当たっては、国の「第2期スポーツ基本計画」及び「第2期北海道スポーツ推進計画」を参酌し、「第6期幕別町総合計画」の基本構想を基に、「幕別町教育大綱」の基本方針や「第6次幕別町生涯学習中期計画」などの個別計画との整合性を図ります。

3 計画の策定体制

この計画は、無作為抽出の町民及び関係団体が参加した「町民と考えるオリンピックの町ワークショップ」から令和元年10月に提言があった内容や学識者及び町内関係団体との意見交換内容などを盛り込み、スポーツに関する施策を体系化した「スポーツ推進計画」を策定します。



4 計画の期間

この計画期間は、令和3年度（2021年度）から令和5年度（2023年度）までの3年間とします。

また、この計画は、社会情勢等の変化に対し柔軟に対応するため、計画期間中であっても必要に応じ見直しを行います。

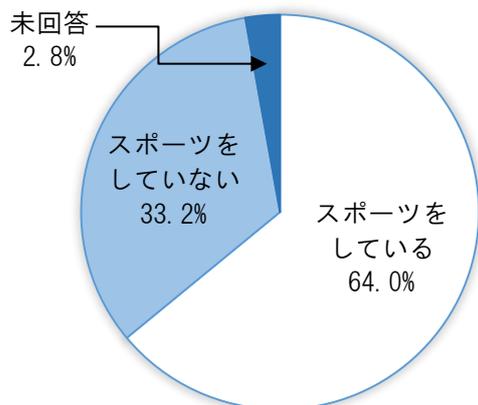
第2章 スポーツを取り巻く現状

1 町民のスポーツ意識の状況

① 子どものスポーツの実施状況

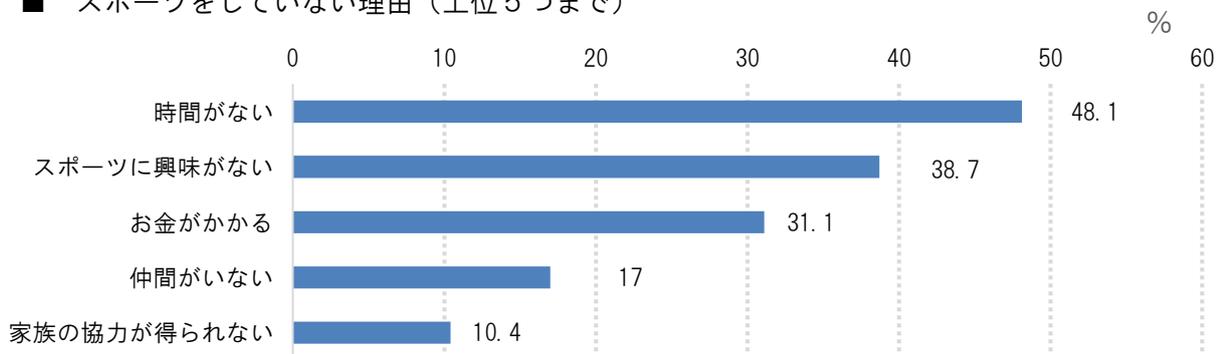
子どもがスポーツをしている人の割合は64.0%ですが、スポーツをしていない人の割合は33.2%となっています。スポーツをしていない人の理由は、「時間がない」、「スポーツに興味がない」、「お金がかかる」と回答が多い一方で、スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度は「やってみたい」または「どちらかというとやってみたい」と回答している方が57.5%となっています。

■ スポーツをしている人の割合



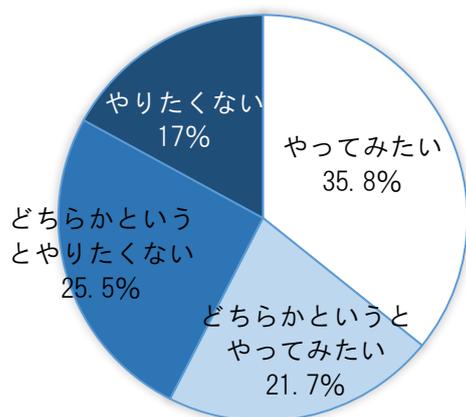
出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

■ スポーツをしていない理由（上位5つまで）



出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

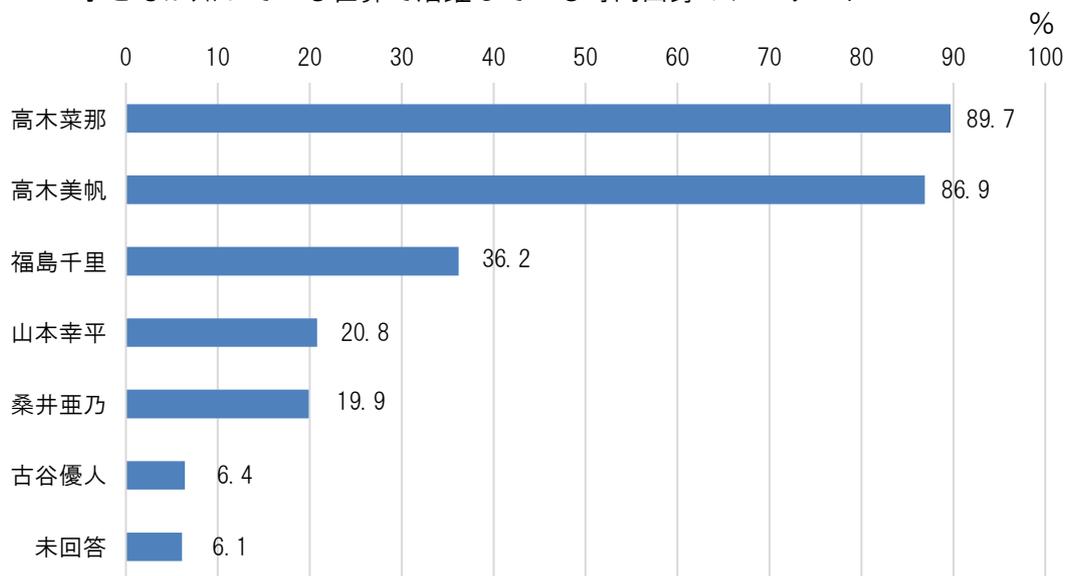
■ スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度



出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

また、子どもが知っている世界で活躍している町内出身のアスリートは、平昌オリンピックで金メダルを獲得した高木菜那選手や高木美帆選手が85%以上となっていますが、他の選手はそれほど知っている人が少ない状況となっています。

■ 子どもが知っている世界で活躍している町内出身のアスリート

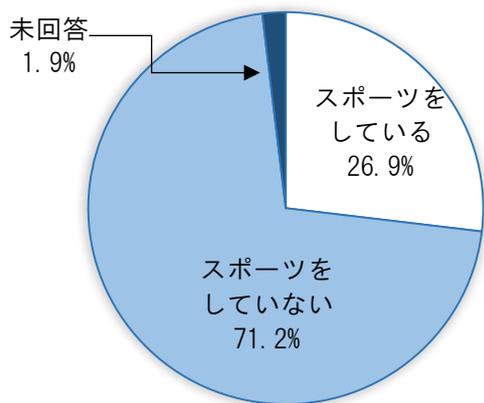


出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

② 成人のスポーツの実施状況

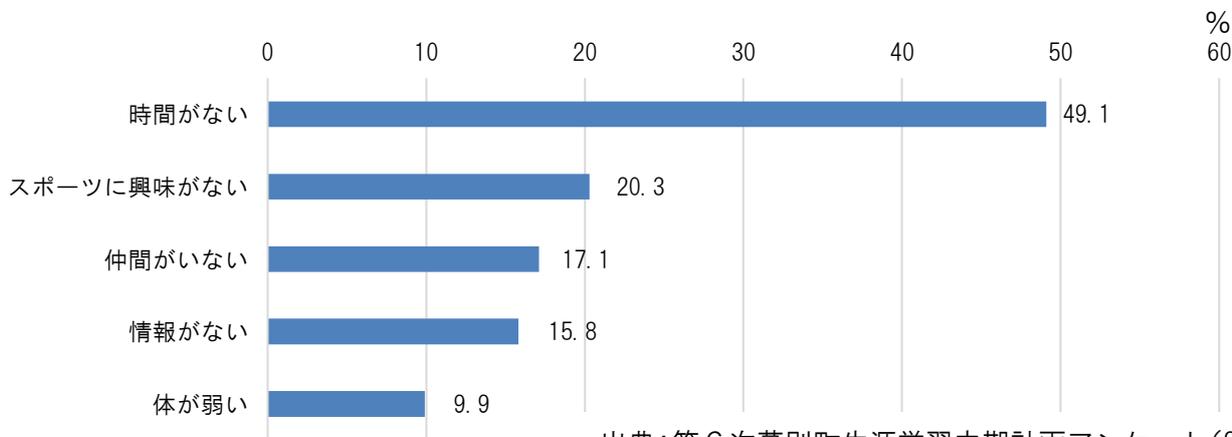
スポーツ庁が実施した「スポーツの実施状況等に関する世論調査(2019)」によると、スポーツをしている人の割合は全国で53.6%であります。町における成人のスポーツをしている人の割合は26.9%であり、全国の約半数の割合となっています。スポーツをしていない人の理由は、「時間がない」、「スポーツに興味がない」、「仲間がない」と回答が多い一方で、スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度は、「やりたくない」または「どちらかというやりたくない」と回答している方が48.7%となっています。

■ スポーツをしている人の割合



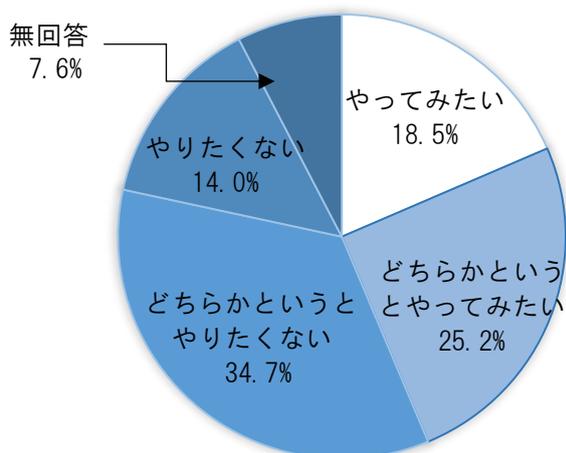
出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

■ スポーツをしていない理由(上位5つまで)



出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

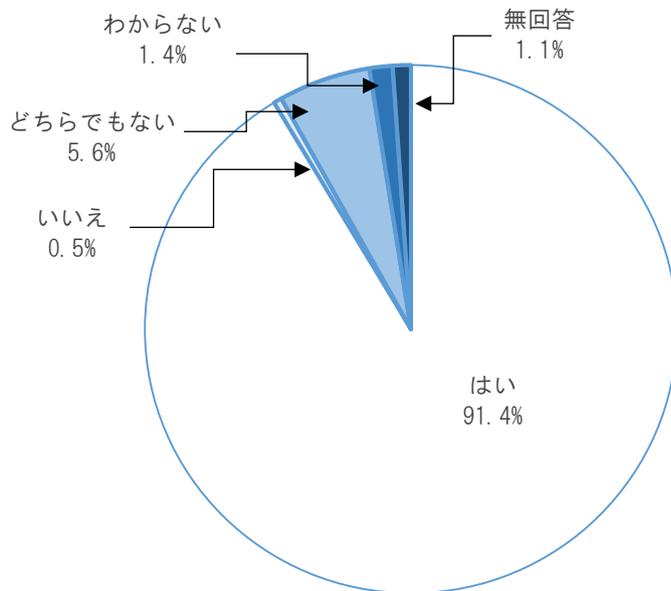
■ スポーツをしていない人におけるスポーツの関心度



出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

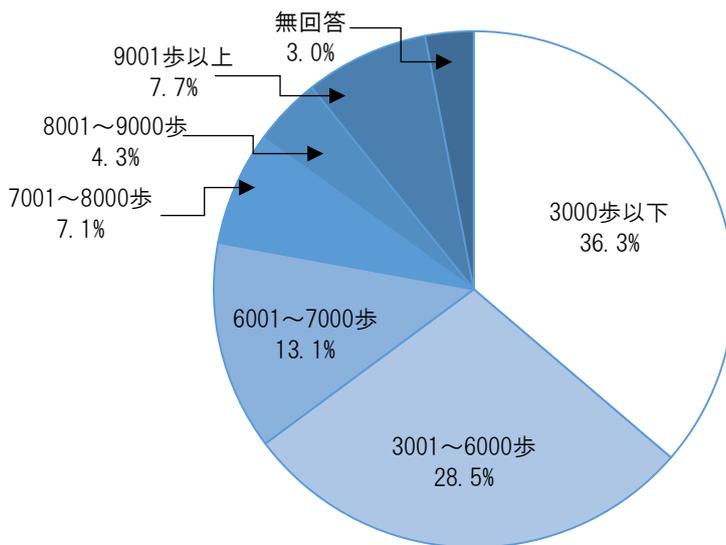
町が行った「健康づくりアンケート（2017）」で、「運動は健康にとって大切か」という問いには大切であると回答した方が91.4%となっており、運動と健康の意識が高い一方、1日に歩く歩数では、3000歩以下が36.3%であり、厚生労働省が行っている「国民健康・栄養調査（2018）」における平均6340歩と比べると非常に少ない状況にあります。

■ 運動は健康にとって大切か



出典：健康づくりアンケート（2017）

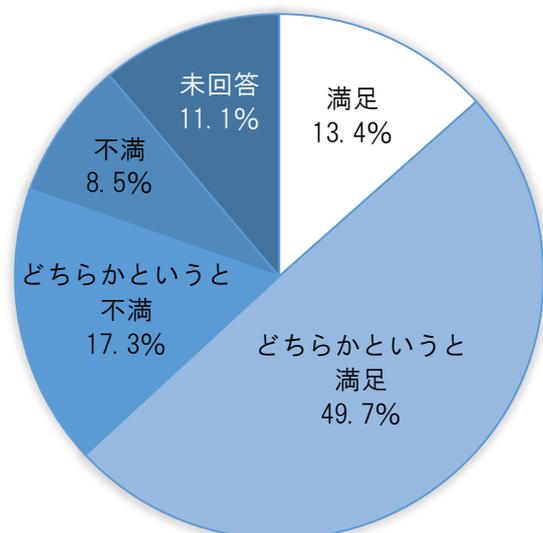
■ 1日に歩く歩数



出典：健康づくりアンケート（2017）

町内のスポーツ環境の満足度は、「満足」または「どちらかという満足」と回答している方が63.1%となっていますが、「どちらかという不満」または「不満」と回答している方が25.8%となっており、不満の理由として、「情報が足りない」、「施設や機器の整備不足」、「参加したい講座やイベントが少ない」と回答されています。

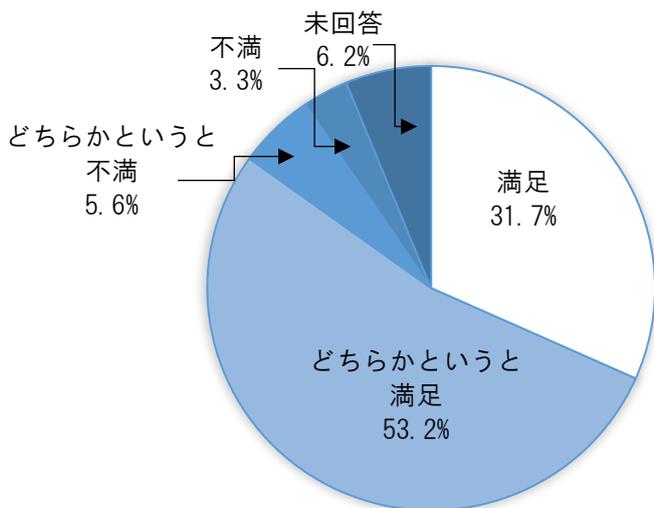
■ 町内のスポーツ環境の満足度



出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

町内のスポーツ選手の応援活動に対する満足度は、「満足」または「どちらかという満足」と回答している方が84.9%となっていますが、「どちらかという不満」または「不満」と回答している方が8.9%となっており、不満の理由として、「応援活動内容がわからない」、「情報が入ってこない」、「オリンピックだけでなく、普段の活動がわからない」と回答されています。

■ 町内のスポーツ選手の応援活動に対する満足度



出典：第6次幕別町生涯学習中期計画アンケート(2018)

2 スポーツ関係団体の状況

① スポーツ少年団の状況

スポーツ少年団の団員数は、近年、横ばい傾向にありますが、団体数は、小学校区単位におけるスポーツ少年団のチームを構成することが難しく、複数校構成の混合チームやクラブチームとなっており、平成28年度をピークに減少傾向にあります。

■ スポーツ少年団登録団員数と団体数の推移（各年度末現在）

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
団体数	38	37	36	36	38	38	38	37	36	35
団員数	1,227	1,127	1,036	999	997	1,012	1,033	1,018	1,045	1,039

② 体育連盟の状況

体育連盟は、町民のスポーツの普及と振興、体力向上と健康増進を願い、昭和33年4月に設立しました。加盟団体数は、近年、横ばい傾向にありますが、競技人数は、令和元年度に500人ほど減少しており、特に若年層の競技者が少なくなっている傾向にあります。

■ 体育連盟加盟団体数と競技人数の推移（各年度末現在）

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
団体数	32	31	32	33	34	34	34	34	34	34
人数	3,589	3,735	3,791	3,748	4,014	3,953	4,019	4,880	4,934	4,436

③ スポーツ推進委員の状況

スポーツ推進委員は12人委嘱し、地域スポーツ振興の推進役として、毎年、「ウォークラリーまくべつ」や「リフレッシュ教室」の開催、「チャレンジデー」や「まくべつマラソン大会」などのイベント協力を行っています。

④ スポーツ合宿誘致実行委員会の状況

スポーツ合宿誘致実行委員会は、スポーツ合宿や大会を誘致し、交流人口の拡大、スポーツの振興及び地域の活性化を目指した活動を行っており、平成30年度は「慶應義塾体育会野球部」の合宿誘致、令和元年度は「慶應義塾体育会野球部」の合宿誘致と「車いすラグビー日本選手権予選リーグ」の大会誘致を行いました。

⑤ 総合型地域スポーツクラブの状況

総合型地域スポーツクラブは、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、それぞれの志向やレベルに合わせて参加できる（多志向）という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

町内には、「特定非営利活動法人 幕別札内スポーツクラブ」と「一般社団法人 十勝総合型スポーツクラブ フーニ」の2クラブを有しており、町のスポーツ振興に大きく貢献しています。

3 スポーツ施設の状況

町内で利用可能なスポーツ施設等は次のとおりであり、各地区に様々なスポーツ施設があります。町発祥のスポーツであるパークゴルフ場は、町内で14コースあります。

農業者トレーニングセンター及び札内スポーツセンターは、令和元年度から指定管理者制度を導入し、民間事業者が施設の管理運営全般を行っており、サービスの充実、利用者の拡大に努めています。

また、民間スポーツ施設では、トランポリン施設やゴルフ場などがあります。

地区	施設名	内容
幕別	農業者トレーニングセンター	アリーナ、武道場、トレーニング室
	幕別運動公園	陸上競技場、野球場、ソフトボール場、多目的広場、屋外スケートリンク場(冬季)、アーチェリー場、テニスコート、ゲートボール場、パークゴルフ場(2コース)
	明野ヶ丘公園	スキー場(冬季)、マウンテンバイクコース、パークゴルフ場(1コース)
	その他施設	屋内プール(1箇所)、屋内ゲートボール場(1箇所)、屋外ゲートボール場(1箇所)、パークゴルフ場(1コース)
札内	札内スポーツセンター	アリーナ、武道場、トレーニング室、テニスコート
	依田公園	野球場、テニスコート、アーチェリー場、パークゴルフ場(2コース)
	札内川河川緑地公園	野球場、ソフトボール場、テニスコート、バスケットコート、サッカー場、ラグビー場、パークゴルフ場(1コース)
	スマイルパーク	パークゴルフ場(1コース)
	その他施設	屋外スケートリンク(冬季)、屋内プール(3箇所)、屋内ゲートボール場(1箇所)、屋外ゲートボール(2箇所)、パークゴルフ場(1コース)
糠内	糠内公園	パークゴルフ場(1コース)
	糠内町民プール	屋内プール(1箇所)
忠類	忠類体育館	アリーナ
	忠類野球場	野球場
	ナウマン公園	パークゴルフ場(2コース)
	白銀台スキー場	スキー場(冬季)
	その他施設	テニスコート(1箇所)、屋外ゲートボール場(1箇所)、屋内プール(1箇所)
民間施設		トランポリン常設施設(1箇所)、ゴルフ場(2箇所)、パークゴルフ場(2コース)

第3章 計画の体系

1 基本理念

スポーツは、幸福で豊かな生活を営むために重要なものであり、健康寿命の延伸や体力向上、介護予防、生活習慣病予防に寄与します。すでにスポーツをすることの楽しさを享受できている町民のみならず、スポーツをしていない、スポーツに無関心な町民も、スポーツを「見る」・「応援する」・「する」・「支える」という視点で、積極的にスポーツに参画し、スポーツを楽しみ、喜びを得ることで、人生が豊かになるよう推進していきます。

また、これまで町内から多数のオリンピック選手を輩出していることやスポーツを行う上で自然環境や社会環境において適した地であることから、「オリンピックの町・幕別町」として町内外に発信していきます。

このことを踏まえ、幕別町の教育目標である「郷土を愛し、自ら学び、心豊かに生きる人」の育成を基本として、子どもから高齢者までのライフステージに応じたスポーツの推進など、これまで推進してきた取組は、本町のスポーツ推進の根幹となるものとして、引き続き、推進・充実を目指していきます。

2 基本目標

本計画の基本理念を実現するため、次の5つの基本目標を掲げます。

基本目標1 スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気醸成しよう！

基本目標2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！

基本目標3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！

基本目標4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！

基本目標5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！

3 SDGsを踏まえた計画の推進

SDGs（エス・ディ・ジーズ）は、持続できるという Sustainable（サステイナブル）のS、開発という Development（ディベロップメント）のD、目標である Goal の複数形 Goals（ゴールズ）のGとsの略語であり、日本語訳として、「持続可能な開発目標」とされています。

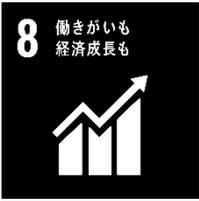
このSDGsは、2015年9月の国連で採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年までの15年間で達成するために掲げた目標であり、環境、経済、社会それぞれの側面を統合的に向上させるため、17の目標と169のターゲットから構成されています。

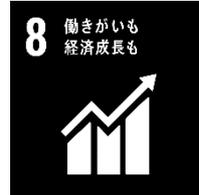
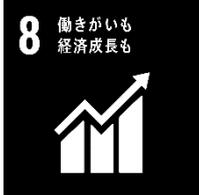
この目標の達成に向け、政府だけでなく、自治体や企業、諸団体、町民にも役割があり、それぞれが協力・連携しあうことが求められています。

当計画がSDGsの推進につながるものと考え、SDGsの視点を取り入れ、基本目標の達成に向けた各種施策を推進します。



4 計画の体系

基本目標	施策の方向	関連するSDGs	
<p>1 スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう！</p>	<p>1 各種メディアによる情報発信の強化 2 町内出身アスリートの応援における町全体での機運醸成 3 スポーツ合宿や大会の誘致とスポーツ交流人口の拡大</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに  《教育》</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう  《パートナーシップ》</p>	<p>8 働きがいも経済成長も  《経済成長・雇用》</p>
<p>2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！</p>	<p>1 スポーツ体験の充実 2 学校での体づくり活動の充実 3 様々な世代のスポーツ機会の充実と健康増進 4 コミュニティスポーツの普及</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を  《健康な生活》</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう  《不平等の是正》</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに  《教育》</p>
<p>3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！</p>	<p>1 スポーツ団体の活性化 2 スポーツ指導者やボランティアなどの人材育成 3 スポーツ人材の働く環境づくり 4 スポーツ大会や用具、送迎などの保護者負担軽減</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに  《教育》</p> <p>8 働きがいも経済成長も  《経済成長・雇用》</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう  《ジェンダー平等》</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう  《不平等の是正》</p>

基本目標	施策の方向	関連するSDGs	
<p>4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！</p>	<p>1 スポーツをしやすい環境づくり</p> <p>2 気軽にスポーツ施設を訪れる機会の創出</p> <p>3 スポーツに親しめる多様な環境整備</p>	<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <p>《健康な生活》</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>《経済成長・雇用》</p> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  <p>《不平等の是正》</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>《教育》</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <p>《インフラ》</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>《安全な都市》</p>
<p>5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！</p>	<p>1 応援大使を活用した宣伝</p> <p>2 スポーツを活用した地方創生</p> <p>3 大学及び道内プロスポーツ団体との連携</p>	<p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>《教育》</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>《安全な都市》</p> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>  <p>《パートナーシップ》</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>《経済成長・雇用》</p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>《持続可能な生産消費》</p>

第4章 基本計画

1 スポーツを「見る」・「応援する」雰囲気を醸成しよう！

〈現状と課題〉

- ・ 町内出身アスリートは、オリンピック出場やプロスポーツなどいろいろな分野で活躍しています。しかし、生涯学習中期計画のアンケート結果から、アスリートの情報が町民へなかなか伝わっていないことがわかり、また、町内出身のアスリートの認知度がそれほど高くないと同時に、町内出身のアスリートが多数いることを町の強みだと感じている人も少ないことがわかりました。町全体が身内意識を持ち、これまで以上に応援する態勢を整える必要があります。
- ・ 自然環境や社会環境においてスポーツ合宿や大会に適した地であるため、近年、スポーツ合宿や大会の受入が増えていますが、町全体となった更なる受入体勢や盛り上がりが必要であることから、官民連携としたネットワークの強化が必要となります。

〈目標（KPI）設定〉

項目	現在	目標値
町の応援活動の満足度 ＊生涯学習中期計画アンケート	85.0% (H30)	88.0% (R5)
スポーツ合宿・大会の受入者数	299人 (H30)	420人 (R5)

〈施策の方向〉

- ① 各種メディアによる情報発信の強化
 - ・ 町民が全道や全国で優秀な成績を収めた町内選手や町内出身のアスリートの情報を積極的に見たり、聞いたり、触れたりできるよう、町ホームページや広報紙で特集する機会を設けるなど、各種媒体により情報を提供します。
- ② 町内出身アスリートの応援における町全体での機運醸成
 - ・ 町全体が町内出身アスリートの応援機運を高めるため、町全体での応援宣伝やパブリックビューイング等を通して、常に応援する雰囲気を作り出します。
- ③ スポーツ合宿や大会の誘致とスポーツ交流人口の拡大
 - ・ スポーツを行う環境が整っていることを発信しながら誘致を進めるとともに、官民連携として歓迎ムードの創出や地域に密着した交流活動等を通じて、スポーツ交流人口の拡大を図ります。

2 スポーツを「する」きっかけや新たな広がりをつくろう！

《現状と課題》

- ・ 少子化、共働きや核家族による家庭環境の影響に加え、スポーツ以外の興味や価値観の多様化により、子どもが体を動かす機会の減少を招いています。また、文部科学省が実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、中学生において全国平均を下回っている傾向があります。
- ・ スポーツをするきっかけには「楽しい」や「憧れ」を感じられることが重要であることから、オリンピック選手をはじめとしたアスリートと触れ合える機会を作ることで、その動機付けを行うことが必要です。
- ・ 成人期において、多くの人々が心身ともに健康で活力ある生活を望んでおり、スポーツ・レクリエーションへの関心がますます高まっているため、日頃からスポーツを「する」きっかけをつくとともに、継続してスポーツをする習慣を身に付けることも重要です。
- ・ パークゴルフは、コミュニティスポーツとして海外にも普及していますが、日本パークゴルフ協会や様々な分野と連携しながら、競技世代の裾野を広げることが必要です。
- ・ 障がい者が自主的かつ積極的にスポーツを行うとともに、年齢や性別、障がい等を問わず、町民がパラスポーツに関心を示し、参画することができる環境整備が必要です。

《目標（KPI）設定》

項目	現在	目標値
成人のスポーツ実施率 ＊生涯学習中期計画アンケート	26.9% (H30)	30.0% (R5)
子どものスポーツ実施率 ＊生涯学習中期計画アンケート	64.0% (H30)	68.0% (R5)

《施策の方向》

① スポーツ体験の充実

- ・ 子どもが基礎的な運動を習得することで、スポーツの楽しさや喜びを感じ、子どもの心身の発育や体力の向上につなげます。
- ・ スポーツ団体と協議し、子どもが気軽に参加できる体験入会などのスポーツをするきっかけとなる取組を検討します。
- ・ 町内出身アスリートと直接触れ合う機会をつくり、様々なスポーツの体験、スポーツ技術の向上を図ります。

② 学校での体づくり活動の充実

- ・ 児童生徒に体を動かす喜びを実感させ、積極的に運動に取り組む意欲や態度を育てるため、学校の休み時間等を利用し、遊びを通してスポーツに親しむ機会を増やすなど体力や運動能力の向上に努めます。
- ・ 町内出身のアスリートが学校に訪問し、その選手が活躍している映像の放送やスポーツ等を通じて選手との交流を図り、スポーツに興味を持つ機会を創ります。

③ 様々な世代のスポーツ機会の充実と健康増進

- ・ ウォーキング、ストレッチ、筋力アップ、ラジオ体操など、家庭においても取り組める運動や、スポーツ施設の利用促進を図るとともに、生活に合わせて継続できる運動を目指し、効果的な方法を普及します。
- ・ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度を上げるため、広報紙やホームページ等で周知を図り、意識して体を動かすことの必要性について働きかけます。

④ コミュニティスポーツの普及

- ・ 町発祥のスポーツであるパークゴルフの情報を国内外へ発信するよう努めるとともに、三世代が交流することができるパークゴルフを気軽に親しめるような取組を進めます。
- ・ パラスポーツ体験イベントを通じて、障がいのある人と障がいのない人が一緒にスポーツを楽しむ場を作るなど、パラスポーツに対する理解促進を図るとともに、共生社会の実現につながるよう努めていきます。

3 社会全体でスポーツを「支える」基盤を整えよう！

《現状と課題》

- ・ スポーツ振興を担う体育連盟は、若年層の加入が少なく、世代交代が進まない団体が見受けられることから、今後、活動の停滞によるスポーツ振興への影響が懸念されます。
- ・ 少子化により、学校単位でスポーツ少年団や部活動のチームを構成することが難しく、複数校構成の混合チームやクラブチームなどが増加傾向にあります。また、保護者が送迎や金銭面などの負担を理由に、スポーツ少年団や部活動に入らない場合があります。
- ・ 運動部活動において、専門的なスキルを持った教員が不足し、「生徒のニーズに合う運動部活動が学校に存在しない」、「不慣れな指導であるために専門性の高い指導ができない」といった課題があります。
- ・ スポーツ指導者は、技術指導だけでなく、スポーツの楽しさや面白さを上手に伝えることがスポーツの推進には不可欠であるため、スポーツ指導者の育成やハラスメントの防止にも取り組むことが重要です。
- ・ スポーツ大会やイベントの開催に当たり、関係団体が主体となり行ってきましたが、今後、多種多様なニーズに対応するため、スポーツボランティアの育成が求められています。
- ・ 北海道幕別清陵高等学校と総合型地域スポーツクラブとの連携により、高校生の活躍の場を創出しており、将来のスポーツに関わる若手人材の発掘・育成が期待されます。また、スポーツ環境をより豊かにするため、町内出身のアスリートの経験が町内で活かされる環境づくりも必要です。

《目標（KPI）設定》

項目	現在	目標値
体育連盟加盟競技人数	4,436人（R1）	4,600人（R5）
町内スポーツイベントのボランティア実績人数	180人（R1）	200人（R5）

《施策の方向》

① スポーツ団体の活性化

- ・ 町民がスポーツの理解と関心を深め、積極的にスポーツをする意欲を高めるとともに、関係団体で連携したイベントなどを展開し、スポーツ団体の活性化が図られるよう引き続き支援していきます。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの特性を有効的に高めるために、関係団体との連携強化を図り、単体のスポーツ団体から複合型スポーツ団体へ変えていくよう支援していきます。

② スポーツ指導者やボランティアなどの人材育成

- ・ スポーツ団体と連携し、研修会や講習会などを通じて、スポーツ活動を「支える」立場である指導者の育成やスポーツ指導の資質向上を図る機会を充実します。
- ・ スポーツボランティアを育成するために、スポーツへの関わり方を学ぶ機会を創るとともに、活動内容の情報収集と情報発信をしていきます。

③ スポーツ人材の働く環境づくり

- ・ 総合型地域スポーツクラブを核として、引き続き北海道幕別清陵高等学校と連携し、将来にわたりスポーツに関わることができる若い人材を育成するとともに、引退後のアスリートを雇用し、スポーツ指導や指導者の育成を行います。
- ・ 専門的な知識とトレーニング技術指導を持ったパーソナルトレーナー等の有資格者の採用を検討し、多種多様なニーズにこたえる指導体制を構築します。

④ スポーツ大会や用具、送迎などの保護者負担軽減

- ・ 子どもが思う存分スポーツに取り組める環境を整えるため、全道大会や全国大会等に参加した者に宿泊費や交通費を助成することにより、保護者の経済負担への支援を行うとともに、送迎や競技用具購入などの保護者負担が軽減できるよう、地域と一緒に協力できる体制づくりを検討します。

4 子どもから高齢者までみんながスポーツをしやすい「環境」をつくろう！

《現状と課題》

- ・ 運動と健康の意識は高い一方、時間がなく、スポーツをするといった行動にはなかなか結び付いていないため、健康を促進するための事業効果が低調の状況にあります。
- ・ 農業者トレーニングセンターと札幌スポーツセンターにおいて、平成31年4月から指定管理者制度を導入し、トレーニング機器の指導担当者の常駐や町民のニーズに応えた健康講座の新設などにより、新規利用者を増やす取組を行っています。しかし、一般開放の時間が少なく、町民が気軽にスポーツをする環境になっていないことから、一度も行ったことがない町民もいます。また、スポーツ施設や公園等において、気軽にスポーツができる場所や情報が不足しています。
- ・ 幅広い世代の方が気軽にスポーツ・レクリエーションの場として公園を利用されていることから、今後も親しみが持て多くの方に利用してもらえる仕組みづくりが求められています。
- ・ スポーツ施設は、日常的に各種競技の練習会場や体力づくりの活動場所として使用されていますが、供用開始から30年以上経過した施設が多いことから、設備や備品の経年劣化が進み、計画的な整備が求められています。

《目標（KPI）設定》

項目	現在	目標値
農業者トレーニングセンター利用人数	26,903人 (R1)	33,000人 (R5)
札幌スポーツセンター利用人数	112,522人 (R1)	120,000人 (R5)
スポーツ環境の満足度 *生涯学習中期計画アンケート	63.1% (H30)	70.0% (R5)

《施策の方向》

① スポーツをしやすい環境づくり

- ・ 仕事等で忙しく、スポーツをする時間がないビジネスパーソンが多いことから、企業において、積極的にスポーツを通じた健康確保を促すため、働き方改革の啓発や休憩時間等にスポーツをしやすい環境づくりを働きかけます。
- ・ スポーツをしない人が気軽にスポーツを継続的に取り組めるよう、インセンティブを提供する制度をより効果的に活用できる手法を検討します。

② 気軽にスポーツ施設を訪れる機会の創出

- ・ スポーツへの興味や関心を高めるための雑誌や本の展示、スポーツ番組の放映、町にゆかりのあるアスリートの紹介を行い、気軽にスポーツ施設を訪ねることができるような演出を行います。
- ・ 気軽にスポーツができる場所、スポーツ施設の設備や利用方法などがわかりやすく紹介できる情報を積極的に発信していきます。また、スポーツ施設の一般開放について、利用団体などと協議を行い、多くの町民がスポーツ施設を利用できるような工夫を行います。

③ スポーツに親しめる多様な環境整備

- ・ 町民が身近な場所でスポーツができるよう、道路や遊歩道、広場や公園などの既存資源を生かし、町民参加を基本として、スポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。町ホームページで公園の健康遊具や利用方法を紹介する等の取組を検討します。
- ・ 将来の人口動態を踏まえて、スポーツ施設における長寿命化計画を策定し、計画的な整備を行うとともに、地域や使用団体が愛着を持って、維持していく手法を検討します。

5 「オリンピックの町・幕別町」を広げよう！

《現状と課題》

- ・ 「オリンピックの町」としての魅力を町内外に発信するために、町内出身の現役オリンピック選手5人を応援大使とする事業や町内出身のオリンピック選手のゆかりの品を展示する事業を展開してきましたが、今後も更なる魅力を発信することが必要です。
- ・ 数年前から「産業まつり」とスポーツクラブによるイベントを同時開催しているほか、令和元年は北海道十勝スカイアースの選手が「産業まつり」に参加協力するなどスポーツを取り込んだ観光イベントが徐々に定着してきています。
- ・ 豊富な観光資源と自然環境や社会環境を生かして、パークゴルフやサイクリングなどの体験型スポーツツーリズムの取組により、町へ訪れる方が徐々に増えてきています。
- ・ 北海道科学大学、日本体育大学との連携協定を締結していることから、町が抱える様々な課題に対して、大学が持つ専門的な知見や学生の視点を生かした解決策や事業展開が期待されます。
- ・ プロスポーツ団体の理念に地域貢献を掲げていることが多いことから、プロスポーツ団体が持つノウハウやネームバリューを生かして、スポーツ振興や町の活性化など様々な課題解決をしていくことが今後求められます。

《目標（KPI）設定》

項目	現在	目標値
オリンピックたちからのメッセージ 「マチアルキ」視聴回数	162回 (R2) *10月末現在	300回 (R5)
スポーツと観光イベントの入込客数	27,000人 (R1)	30,000人 (R5)

《施策の方向》

- ① 応援大使を活用した宣伝
 - ・ 今後も応援大使を活用した町の魅力発信を継続するとともに、様々な町の特徴を活用して、町の認知度を向上するための手法を検討します。
- ② スポーツを活用した地方創生
 - ・ 町の基幹産業である農業を活用して、アスリートの育成に必要な栄養バランスがとれた地元産アスリート食の開発を進め、販路拡大に繋がります。
 - ・ 町の特色である「農作物」、「食」、「スポーツ」、「エンターテインメント」を融合したイベントを開催し、子どもから高齢者までをターゲットとした集客や、スポーツに関心がない方も無意識に関わることができる取組を推進していきます。
 - ・ 今後も体験型スポーツツーリズムを発展させていくために、スポーツ用具等の環境整備や情報発信の強化を行うとともに、旅行会社や近隣自治体と連携していきます。
- ③ 大学及び道内プロスポーツ団体との連携
 - ・ 北海道科学大学や日本体育大学との連携により、スポーツだけでなく、幼児教育や保健医療など様々な分野における研修会や講座の開催、北海道幕別清陵高等学校と連携した事業を検討します。また、大学が持つ専門的な知見を生かして、町内出身のオリンピック選手輩出

に係る優位性や環境の分析研究を行い、その研究結果に基づき、町の愛着心につながる取組を行うことで、持続可能なまちづくりを推進していきます。

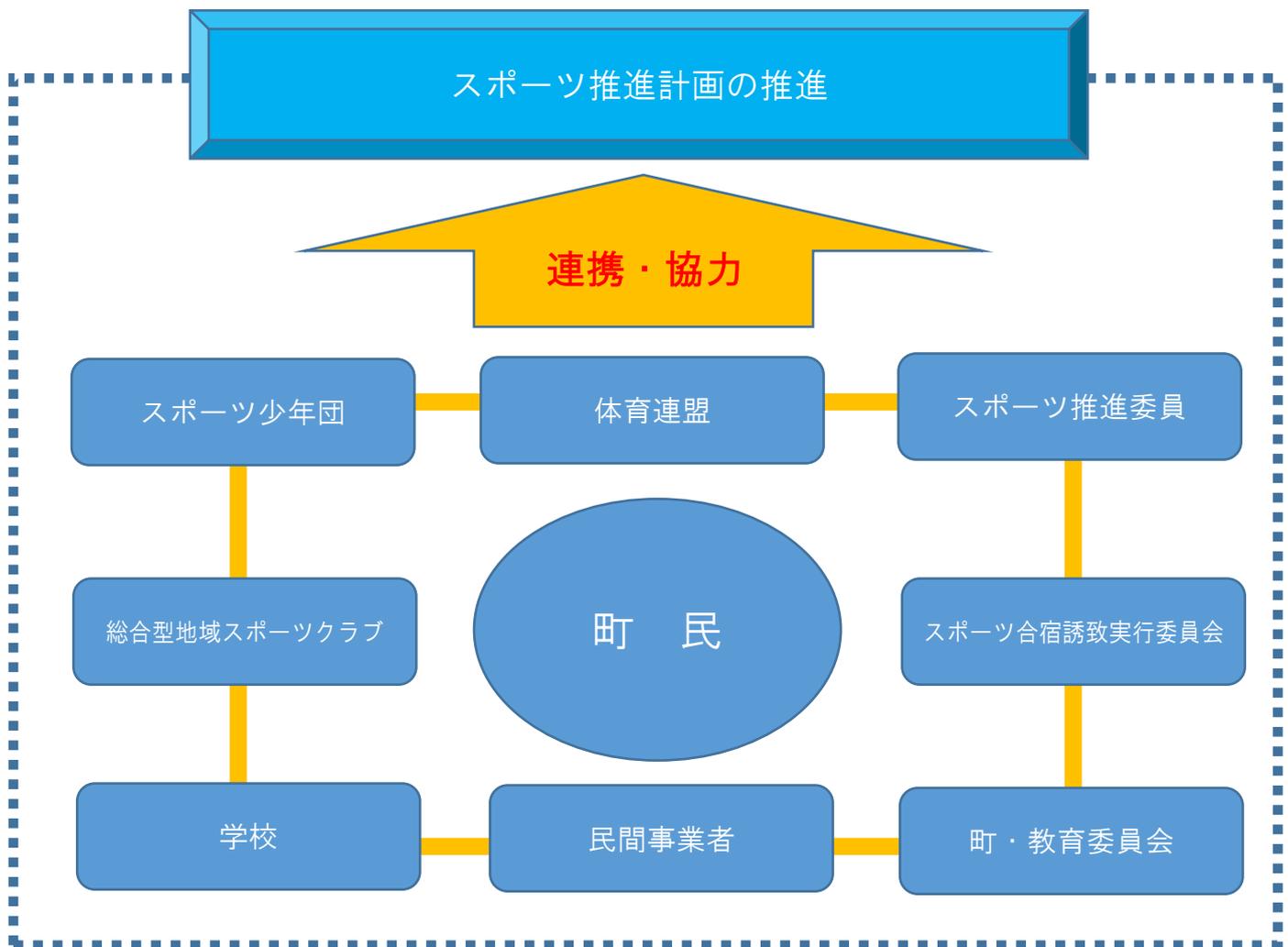
- ・ 道内プロスポーツ団体と連携協定締結の検討を進めると同時に、人材育成やスポーツを核にした健康、教育、観光など地域活性化に向けた事業等を展開します。

第5章 計画の推進に当たって

1 計画の推進に当たって

計画を推進していくためには、町民、スポーツ少年団、体育連盟、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ合宿誘致実行委員会、学校、民間事業者、町・町教育委員会が一体となり、互いに連携・協力をしながらも、それぞれの担う役割に対して主体的にスポーツ推進に取り組み、町民のだれもが「みる」、「応援する」、「する」、「支える」スポーツを楽しみ、親しめる環境づくりが望まれます。

《イメージ図》



2 主な関係団体の役割

① スポーツ少年団

スポーツ少年団において、子どもたちへスポーツを通じた健全育成の役割が期待され、指導者の意識と専門的な知識、技術や資質を高めていくことが望まれます。

② 体育連盟

体育連盟加盟団体をはじめ、スポーツ推進委員や関係団体と連携を図り、時代の変化や町民のニーズに即したスポーツを推進するとともに、町民の体力向上と健康増進、スポーツの情報収集や情報提供を通じて、明るく豊かな生活の形成に寄与していくことが望まれます。

③ スポーツ推進委員

地域のスポーツ推進のコーディネーターとして、その職責を達成できる知識と技術を身に付け、スポーツ推進のための連絡調整やスポーツの実技指導を通じて、町民が自発的にスポーツを行うことができるよう幅広い活動をするのが望まれます。

④ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブが地域で抱える様々な課題にこたえるため、地域住民やスポーツ団体等と連携して、スポーツを通じた健康増進、子育て支援、学校への支援などを引き続き行い、「社会的な仕組」として定着していくことが期待されます。

⑤ スポーツ合宿誘致実行委員会

官民連携により、スポーツを通じて地域に密着した交流活動等を行い、スポーツ交流人口の拡大とスポーツによる町の活性化が図られることを期待されます。

⑥ 学校

体育の授業や運動部活動などの学校体育における子どもたちの体力向上や健全な育成、そして大人になってもスポーツを楽しむきっかけづくりが期待されます。

⑦ 民間事業者

指定管理者制度による施設運営や民間事業者の連携によるスポーツ推進に向けた施策の展開など、民間活力によるノウハウの提供が期待されます。

⑧ 町・町教育委員会

町民のスポーツ活動をより充実したものにするため、スポーツの枠に捉われることなく、幅広い機関や庁内関係部署と連携を図ります。

また、基本理念を実現しスポーツ活動をより充実するために、ソフトとハードの両面から環境の整備を図りつつ、町民の自発的なスポーツの推進に取り組めます。